

2013年7月10日

宇治市長
山本 正 様

宇治・世界遺産を守る会
代表世話人 須田 稔

塔の島上流の工事用鋼矢板締切による水質汚濁問題発生に関して 早急なる対応を要請します

貴職におかれましてはご清祥のことと存じます。

さて、塔の島上流の工事用鋼矢板締切によって深刻な水質汚濁問題が発生しています。

「鋼矢板を打ち込んだ最上流は石を積み上げて締め切り堤状態で、派流側のほうが水位が30センチほど高く、宇治川本流に派流の水が流れ込んでいます。その水は白濁し悪臭がします。」との通報があり、6月14日に現地調査しましたところ、大変な水質汚濁が起こっています。

鋼矢板締切により、水が滞留することに加えて、雑排水の流入が加わり水質汚濁が進んでいるものと思われます。水は白濁緑色で透明度はほとんどありません。最上流端から宇治川本流へと汚濁水が流入しています。目視できる水質汚濁区域の下流端は、2012年の工事で撤去された塔の川締切堤の直上流部です。(写真1～3参照)

その下流の塔の川の辺りは、導水管からの流入水で汚濁は希釈されているように見えます。しかし、このままいけば、かつての塔の川のように藻の大量発生が起こり、悪臭発生もあり得ると推察します。鵜飼の鵜の健康状態にも影響するのではないかと懸念されます。

川を締め切れば水が滞留し、さらに汚染水が流入すれば、水質が悪化し、水質汚濁、藻の異常繁殖、悪臭の発生は避けられないでしょう。

塔の川(派川)では、締切堤(2000年設置、2012年撤去)を設置した後に、塔の川への流入水が毎秒3m³へと極端に減少した結果、藻の異常繁殖と悪臭が発生する事態が起こりました。

今回は塔の川締切堤を撤去した後、塔の島上流に延長240mの範囲に工事用鋼矢板を打ち込み、平成24年度工事が終わったにもかかわらず、これを一部撤去せずに放置したことが原因です。淀川河川事務所が宇治市議会に提出した資料(宇治市建設水道常任委員会資料 平成25年1月23日)で明示されている施工計画を自ら無視し、逸脱していることが原因です。

このままでは、かつての塔の川の藻の異常繁殖と悪臭発生が、塔の川の範囲を超えて鋼矢板で締め切られた上流の宇治川本川左岸側一帯で起こりうる可能性があります。

また淀川河川事務所が計画する鋼矢板締切・導流堤設置が、河川環境と景観を壊すことになると、3月8日の段階で、淀川河川事務所に指摘してきたところです。水質汚濁問題の発生は、鋼矢板締切・導流堤設置計画がいかんにかつての宇治川の河川環境と景観を破壊する危険性が高いかということを示すものです。

- 1、淀川河川事務所へ即刻工事用鋼矢板締切を部分撤去することを求めてください。
- 2、工事用鋼矢板締切を工事終了後完全撤去すること、また導流堤設置計画の中止を淀川河川事務所に求めて下さい。

以上

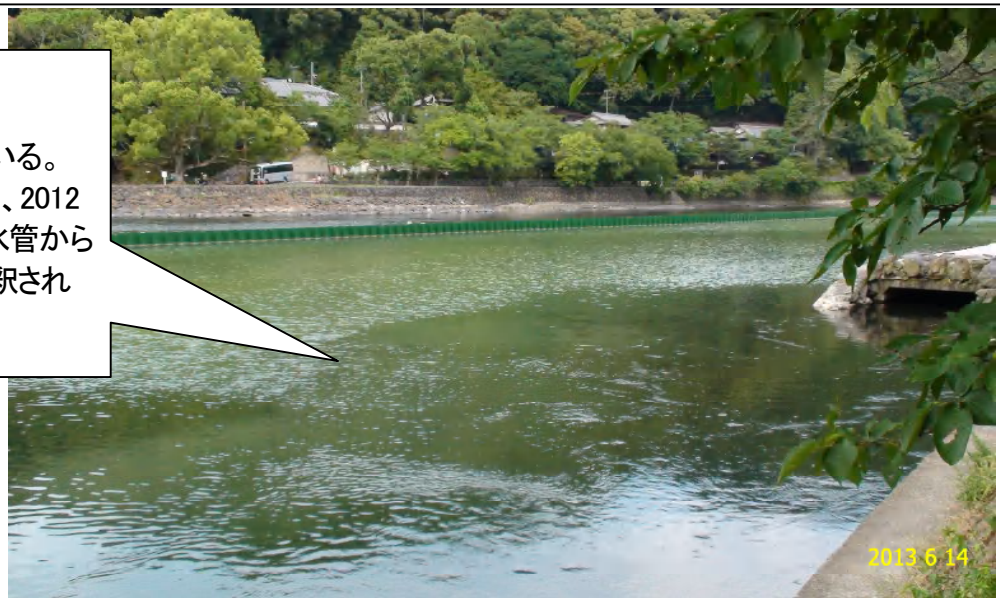
写真1 2013年6月14日
鋼矢板締切の上流端
汚濁水が締切部分から本流へ流れ出し、水質汚染・汚濁が広がっている。
これ自身が水質汚濁防止法違反の恐れ。




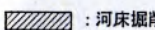



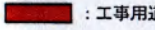


写真2 2013年6月14日
鋼矢板締切の内外では水質汚濁の差は歴然。汚濁のために透明度はほとんどない。

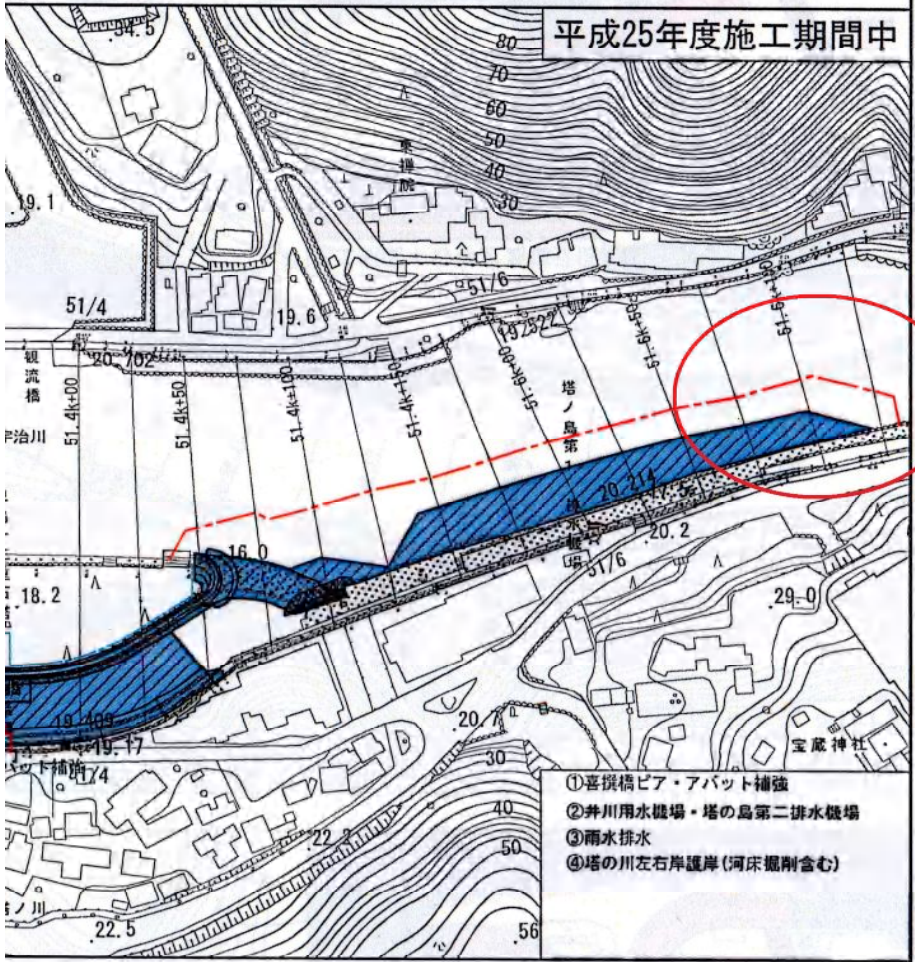


写真3 2013年6月14日
鋼矢板締切の下流端
水質汚染・汚濁が広がっている。
塔の川締切堤(2000年設置、2012年撤去)跡から下流は、導水管からの水でかろうじて汚濁が希釈されている様子。

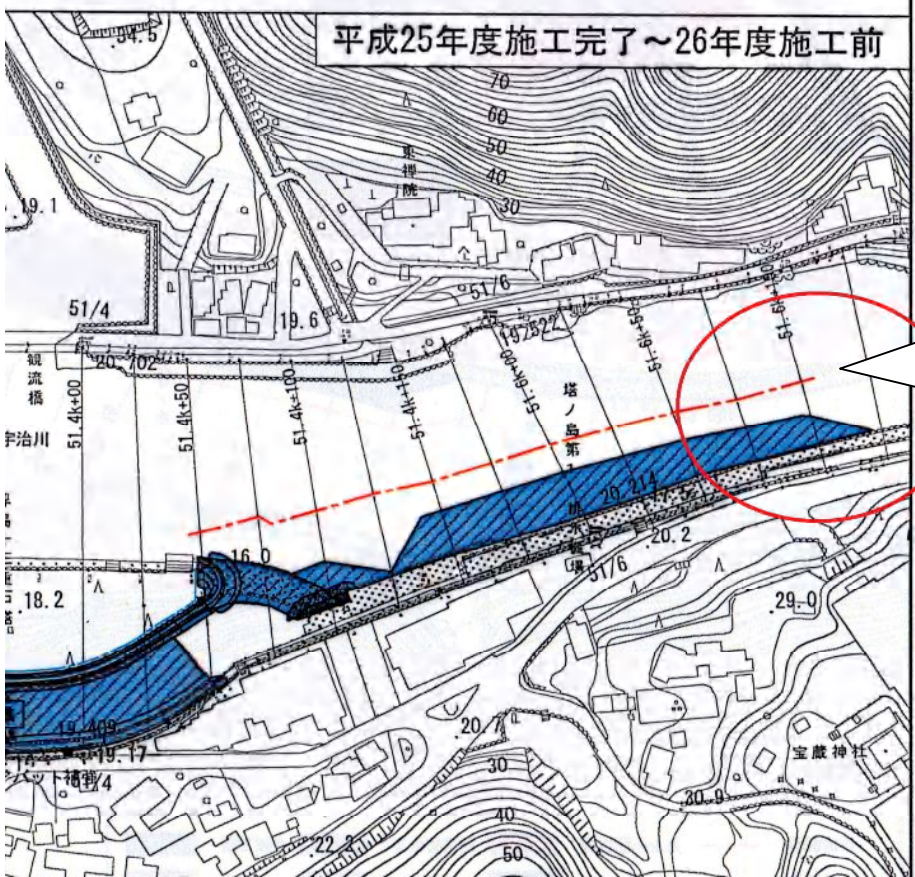


凡例

			
： 施工中	： 河床掘削	： 橋梁通行可	： 仮設フェンス
			
： 施工済み	： 工事用道路	： 橋梁通行不可	： 仮締切り



130125
 宇治市建設水道
 常任委員会資料
 (淀川河川事務
 所)
 27 ページ
 施工計画平面図



平成25年度施行完了後、26年度施工前は、鋼矢板締切の一部を撤去する施工計画。これが実施されていないために水質汚濁が発生している。